資料	7

「２０２０年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－（素案)」について

平成２７年１１月２０日、東京都は、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて２０２０年までの取組をまとめた「２０２０年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－（素案)」を公表した。

１　目的、概要等

別紙のとおり

※詳細については、該当ホームページを参照

・「２０２０年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－」

http://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikaijyunbi/torikumi/legacy/index.html

２　スケジュール

１１月２０日～１２月４日	意見募集（実施済）
１２月末	策定・公表（予定）

別紙

「2020年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－（素案）」の概要

目　的

■ 大会後のレガシーを見据えた東京都の取組の方向性を明らかにする
・大会を通じて価値あるレガシーを残していくための取組を、2020年に向けて着実に進める
・大会に向けた取組を明らかにすることにより、都民の皆様が大会に関わりを持ち、参加していただくきっかけづくりとする

取組の方向性

大会後のレガシーを見据えた８つのテーマについて取組の方向性を提示

1　競技施設や選手村のレガシーを都民の貴重な財産として未来に引き継ぎます

2　大会を機に、スポーツが日常生活にとけ込み、誰もがいきいきと豊かに暮らせる東京を実現します

3　都民とともに大会を創りあげ、かけがえのない感動と記憶を残します

4　大会を文化の祭典としても成功させ、「世界一の文化都市東京」を実現します

5　オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成と、多様性を尊重する共生社会づくりを進めます

6　環境に配慮した持続可能な大会を通じて、豊かな都市環境を次世代に引き継いでいきます

7　大会による経済効果を最大限に生かし、東京、そして日本の経済を活性化させます

8　被災地との絆を次代に引き継ぎ、大会を通じて世界の人々に感謝を伝えます

３つの視点

東京に	東京2020大会を起爆剤として、成熟都市・東京をさらに発展させ、 ゆとりある真に豊かな都民生活を実現する
日本へ	オールジャパンで大会を成功に導き、経済の活性化や被災地復興の後押しなど、 大会の効果を日本全国へ波及させる
そして世界に向けて	水素社会の実現に向けた先進的な取組や、東京、日本の高度なテクノロジー、 東京のブランド力などを、東京が日本のショーウインドウとして世界に向けて 発信するとともに、大会を機に世界との交流をさらに深めていく

２回目のパラリンピック

パラリンピックを通じて、誰もが暮らしやすい東京を実現する

○　東京は、世界で初めて２回目のパラリンピックを開催する都市
○　パラリンピックは、ノーマライゼーションの考え方を社会に定着させるなど、社会に変革をもたらす力がある
○　このような大きな力を持つパラリンピックの成功がなければ、東京2020大会の成功はない
○　大会の成功に向け、都市のバリアフリー化や心のバリアフリーの浸透など、ハード・ソフト両面での取組を全力で進め、障害の有無にかかわらず誰もが暮らしやすい東京をつくりあげていく

今後の予定

○　パブリックコメント募集（11月20日～12月4日）を経て、本年12月末に本公表

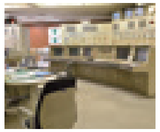
2 選手村を誰もがあこがれ住んでみたいと思えるまちに

◆多様な居住ニーズに柔軟に応えられる仕様と快適に暮らせる機能、水素エネルギーなど最先端の環境技術を導入

エネルギー

◆環境先進都市のモデル実現
◆日本の高い技術力を世界に発信

【エネルギーマネジメント*】

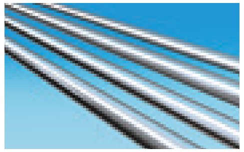

エネルギーマネジメント・センター

太陽光

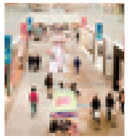
蓄電池

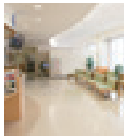
【水素供給システム】

水素ステーション*

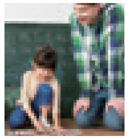

パイプライン（イメージ）

商業棟に導入


商業施設


クリニックモール

スポーツ施設


英語体験施設

交通

◆住む人も来る人もエコに活動できるまち

BRTの導入

船着場の設置

マルチモビリティステーション*

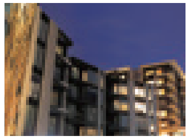
カーシェア・シェアサイクル

晴海中心軸沿いに導入

カフェ

保育所

住宅棟に導入


サービスアパートメント*

日本でのビジネス展開を目指す外国人ビジネスパーソン向け

SOHO*

起業家・多様な就業形態を希望する在宅ワーカー向け

シェアハウス

他者との共同生活に楽しさや安心感を求める単身者向け（学生寮としての活用も検討）

サービス付き高齢者向け住宅*・有料老人ホーム

単身・夫婦のみ高齢者世帯や、介護の必要性が高い高齢者向け

※2015年11月時点における検討中の導入機能の例

2020年に向けた取組の概要

○民間事業者の活力とノウハウを活用した選手村の整備

■計画段階で、「事業協力者」として選定した民間事業者の高い技術力やまちづくりの豊富な経験を生かし、より魅力ある選手村計画を策定していく。

■選手村整備においては、市街地再開発事業の特定建築者制度を導入し、民間事業者の活力や開発ノウハウを活用していく。

○スマートエネルギー都市*づくりの推進

■エネルギーマネジメントの導入により、エリア内のエネルギー使用量を把握し、省エネルギーとエネルギーの効率的な使用を促す。

■水素ステーションの設置によるBRTや燃料電池*自動車への水素の供給や、水素パイプラインの整備と次世代型水素燃料電池の導入による水素供給システムの実現、家庭用燃料電池の導入などにより、水素社会の実現に向けたモデルとする。

○多様な人々が交流し、快適に暮らせる機能を導入

■住宅棟は、子育てファミリー層住戸のほか、サービスアパートメント、SOHO、シェアハウス、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホームなど、様々なニーズに柔軟に対応できるよう整備する。

■居住者の安全・安心な生活を守るため、防潮堤等の海岸保全施設の整備を進める。

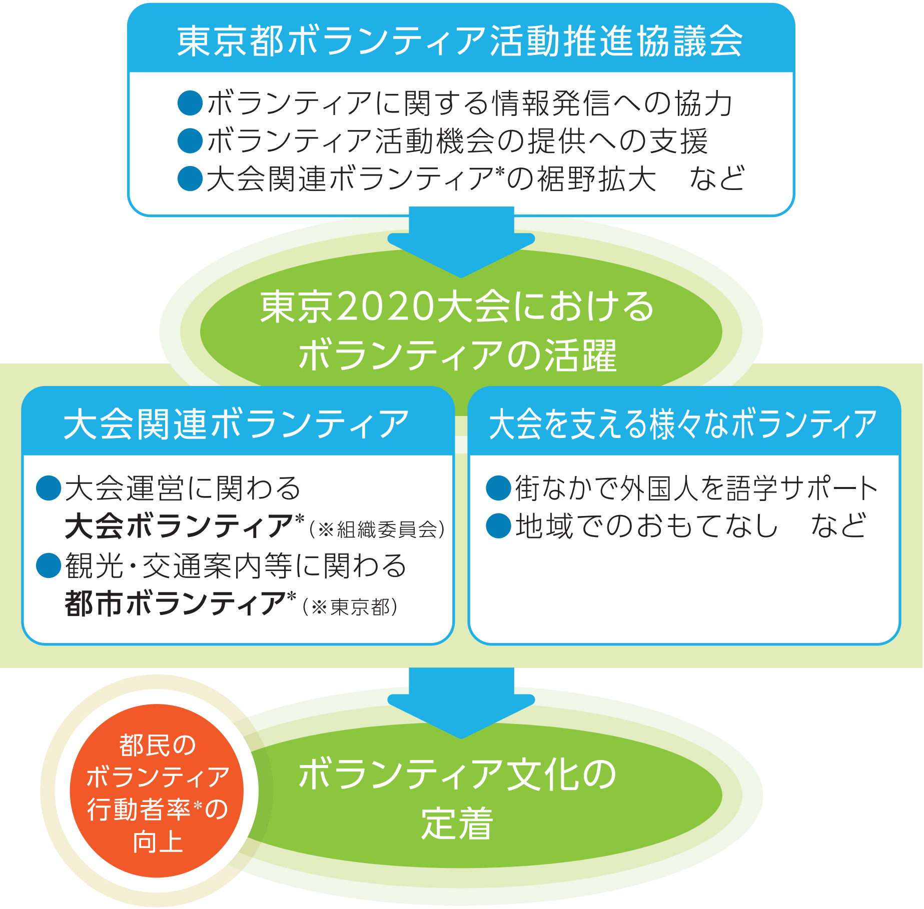
■商業棟にはクリニックモールやスポーツ施設、英語体験施設、メインストリートとなる晴海中心軸にはカフェ、保育所など、地域のにぎわいを生み、快適な暮らしを支える施設を導入していく。

○住む人も来る人もエコに活動できるまちづくり

■BRT等のターミナルとなるマルチモビリティステーションを中心として、カーシェア・シェアサイクルの共通ポートや船着場等の整備により、交通結節点としての機能を強化し、域内の交通利便性を向上させる。

3 大会を支えるボランティアの裾野を拡大するとともに、ボランティア文化の定着を目指す

都民のボランティア活動への参加を促進し、ボランティア文化を定着



2020年に向けた取組の概要

○大会を支えるボランティアの裾野拡大

■経済団体や企業、町会・自治会等の民間団体、学校、国、組織委員会、都内区市町村、競技会場のある他都市や被災県などの関係地方自治体、東京都等で構成する「東京都ボランティア活動推進協議会」の設置により、東京2020大会の成功に向けて多様な主体が連携し、円滑なボランティア活動に向けた取組を推進する。

■「東京都ボランティア活動推進協議会」の構成団体それぞれが、ボランティア活動に関心の薄い都民や受入れ側などへの情報発信、ボランティアの新たな活動場所や活動しやすいメニュー開拓の働きかけ、大会関連ボランティアの裾野拡大などの取組を推進し、気運を醸成する。そして、障害のある人もない人もボランティアに参加しやすい環境づくりを進め、裾野拡大を図る。

■大会関連ボランティアの裾野拡大及び気運醸成に向けて、ボランティア情報を紹介するホームページの開設や、過去の大会におけるボランティアの活躍等を伝えるシンポジウムを開催するなど、情報発信を進める。

■「東京都ボランティア活動推進協議会」を通じて、企業、学校、地縁団体や都内在住外国人団体など、様々な主体との連携を推進し、多言語による観光・交通案内の体制を構築する。

■おもてなし東京（観光ボランティア）による「街なか観光案内」の実施箇所を拡大するとともに、活動に対して必要なサポートを提供し、大会時の都市ボランティアの核として活躍する人材を育成する。また、中高生を対象に、外国人旅行者に東京の魅力を伝える「おもてなし親善大使」を育成する。

■外国人に対するおもてなしと英語等での簡単な道案内ができる「外国人おもてなし語学ボランティア」の育成講座を、大会まで継続的に開催する。また、区市町村と連携して地域における自発的なボランティア育成の取組を支援し、大会時に会場近隣に限らず都内各所でボランティアが活躍できるよう取り組んでいく。

■パラリンピックに向けて、大会関連ボランティアの育成において、障害のある人へのサポート方法などの研修を行う。

■ラグビーワールドカップ2019に向けて育成したボランティアを、東京2020大会の大会関連ボランティアにつなげていく。

1 これまでにない多彩で魅力的な史上最高の文化プログラムを展開

2020年に向けた取組の概要

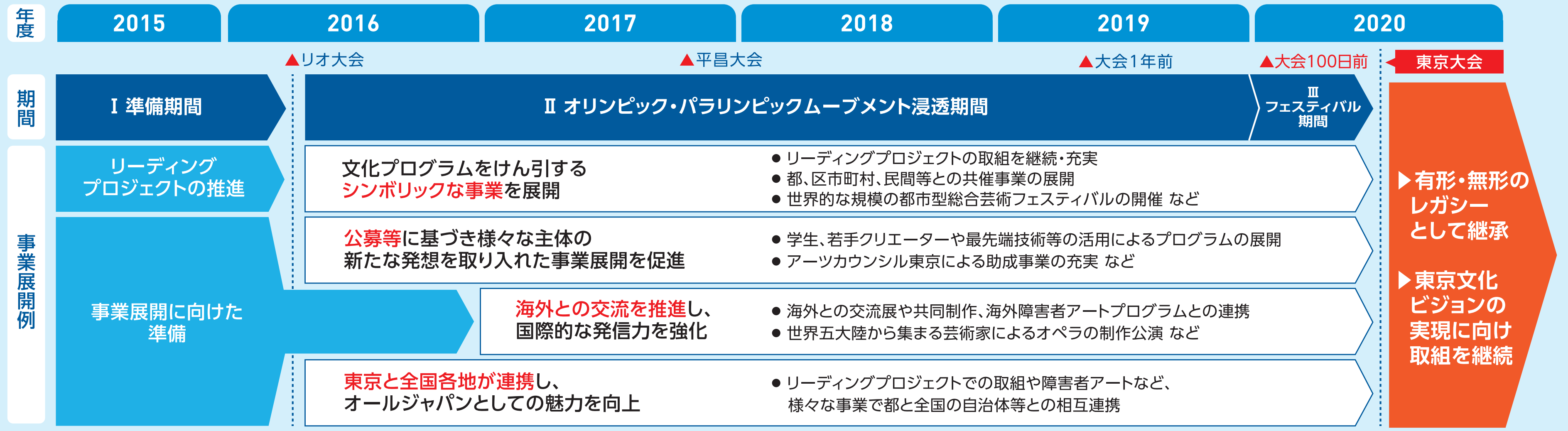
○文化プログラムを先導するリーディングプロジェクトを推進

■ 伝統芸能や演劇、音楽など様々な分野の芸術家が、ベテランから若手まで一堂に集結する「東京キャラバン*」を、リオデジャネイロ大会開催地や日本各地で展開する。
■ 障害者と健常者がともに制作活動を行う「障害者アートプログラム」を実施する。
■ 外国人や子供を対象に伝統文化の普及を図る「伝統文化芸能体験プログラム」を展開する。

○様々な主体が連携・参加し、これまでにない先進的な文化プログラムを展開

■ 美術館・博物館、劇場ホールをはじめ、都市のあらゆる空間を活用するとともに、多彩な芸術文化を、高齢者、障害者等のあらゆる人々が日常生活の中で実体験できるプログラムを実施していく。
・文化プログラムをけん引するシンボリックな事業を展開
・公募等に基づき様々な主体の新たな発想を取り入れた事業展開を促進
・海外との交流を推進し、国際的な発信力を強化
・東京と全国各地が連携し、オールジャパンとしての魅力を向上

都が主導する文化プログラムの事業展開例



「2020年に向けた東京都の取組ー大会後のレガシーを見据えてー（素案）」（H27.11.20東京都公表）
2020年に向けた取組及び取組の方向性一覧

【中央区作成資料】

1	**競技施設や選手村のレガシーを都民の貴重な財産として未来に引き継ぎます**	
	1）	新規恒久施設の着実な整備と有効活用、スポーツ施設の機能強化により、東京のスポーツ拠点を拡充します
	2）	選手村を誰もがあこがれ住んでみたいと思えるまちにします
	3）	ベイエリアの交通利便性を向上させ、アクセスを強化します
	4）	大会に向けたバリアフリー化の推進と安全・安心への備えを、誰もが快適に安心して暮らせる東京のまちづくりにつなげていきます
2	**大会を機に、スポーツが日常生活にとけ込み、誰もがいきいきと豊かに暮らせる東京を実現します**	
	1）	多様な主体によるコラボレーションの仕組みを構築してスポーツを推進します
	2）	東京の資源を最大限に活用して東京全体に「スポーツフィールド」を創出し、いつでもどこでもスポーツができる環境を整備します
	3）	パラリンピックの成功に向けて、障害者スポーツの認知度を飛躍的に向上させ、障害者がスポーツに親しむための環境整備を加速させます
3	**都民とともに大会を創りあげ、かけがえのない感動と記憶を残します**	
	1）	都民の皆様の参加を得て、大会開催気運を醸成します
	2）	「オール東京」で大会を成功に導きます
	3）	大会を支えるボランティアの裾野を拡大するとともに、ボランティア文化の定着に向けた取組を進めます
4	**大会を文化の祭典としても成功させ、「世界一の文化都市東京」を実現します**	
	1）	これまでにない多彩で魅力的な史上最高の文化プログラムを展開します
	2）	あらゆる人が芸術文化を享受できる社会基盤の構築を進めます
	3）	東京の持つポテンシャルを活用し、芸術文化の魅力を世界に発信します

5	**オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成と、多様性を尊重する共生社会づくりを進めます**	
	1）	オリンピック・パラリンピック教育を推進するとともに、多様性を尊重する意識・態度や国際感覚を醸成します
	2）	多文化共生社会に向けた取組を推進します
	3）	障害のある人もない人も互いに尊重し、支えあう共生社会の実現に向けた取組を推進します
6	**環境に配慮した持続可能な大会を通じて、豊かな都市環境を次世代に引き継いでいきます**	
	1）	水素社会の実現に向けた取組を推進します
	2）	持続可能な都市の実現のため、環境対策を推進します
7	**大会による経済効果を最大限に生かし、東京、そして日本の経済を活性化させます**	
	1）	大会を機に魅力的な国際ビジネス環境の創出を促進し、日本経済の持続的発展に貢献していきます
	2）	大会を契機に東京を世界有数の観光都市にするとともに、東京から日本の魅力を発信します
	3）	東京のみならず日本全国に幅広く経済効果を波及させるため、中小企業等の取組を支援していきます
8	**被災地との絆を次代に引き継ぎ、大会を通じて世界の人々に感謝を伝えます**	
	1）	スポーツの力で被災地に元気を届け、復興へ歩む姿を世界に発信します
	2）	早期復興に向けて被災地を支援します